
看護学科の設置

1 設置の趣旨

今日我が国では、急速な少子・高齢化による人口構成の変化、疾病構造の変化、また、人々の健康への関心の高まりなどにより、医療を取り巻く社会環境は著しく変貌してきている。慢性疾患や老化による障害を抱えて生活する人々が増加するにつれ、療養生活の質、生命の尊厳の本質が改めて問い直されるようになった。医療においても、治療水準の向上とともに、あらゆる健康レベルの人々を対象とした、保健・医療・福祉が連携した良質できめ細かな援助サービスが要請されるようになってきた。

したがって、21世紀の医療における看護の責任は今後ますます重くなり、拡大し複雑化する社会的ニーズに応えていくためには、豊かな感性と深い倫理観に裏付けられた人間性、専門的知識・技術と実践力を備え、問題解決能力を身につけた看護職の養成が課題となってくる。また、看護の質を向上させるための学問的基盤の確立、地域で保健医療にかかわる人々と共にケアチームを作り、生涯学習を続けていける体制整備も必要となる。

本学では、社会の要請に応えるべく、次のような人材の育成と学問的基盤の確立を目標として、医学部に4年制教育課程の看護学科を設置した。

全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材

高度医療の一環を担い得る資質の高い人材

保健・医療活動に指導的役割を果たせる人材

看護学における学問的基盤を確立できる人材

広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材

看護学科では、医療技術短期大学部におけるこれまでの教育・研究の成果を踏まえ、医学科との緊密な協力体制を築き、総合大学としてのメリットを十分に活用して、教育・研究を行う。

2 教育理念

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、21世紀の医療に向けて、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる資質の高い看護職を育成する。

3 教育目標

人権と命に対する尊厳と、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成

総合的な人間理解の能力の育成

自主性かつ創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力の育成

看護専門職として、科学的知識・技術を修得し、それを探求していくことができる能力の育成

看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力の育成

4 修業年限及び入学定員等

名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
医学部 看護学科	4年	80人	10人	340人	編入学定員は3年次に設定

5 講座及び講座内容等

講座	教育研究領域	講座の内容	開設科目
基礎看護学	基礎看護学	看護学の発達過程を踏まえて、看護の概念や理論体系を明確にし、健康生活という概念を基盤において、あらゆる健康レベルの人々を対象とした生活援助のための理論と方法について教授・研究する。また、看護が必要とする情報とは何かを明らかにして、その基礎となる人間の形態・機能・病態について教授・研究する。	看護学原論，看護の原理と実際，看護の対象と家族の理解，ライフサイクルと発達，家族健康論，基礎看護技術，看護技術検証，感染と看護，看護アセスメント演習，看護管理論，国際看護事情，看護研究のための英文抄読，初期体験実習，基礎看護学実習，国際交流文化論
	健康援助学		形態機能学，代謝栄養学，分子レベルでみる身体，細胞レベルでみる身体，生活行動からみる身体，生体科学演習，疾病の成因と予防，フィジカルアセスメント，生活習慣と健康，ストレスと健康，健康教育とヘルスプロモーション，ヘルスカウンセリング技法，生体物理化学
母子看護学	母性看護学	母性・小児の特性を，発達段階，生活過程，健康レベルの上から明らかにし，各特性に応じた適切な看護援助を行うための理論と方法について教授・研究する。少子化の進む我が国における健全な次世代の育成のために，社会背景を視野にいれた新しい母子看護の在り方を考えていく。	母性・小児病態論，母性看護論，母性看護方法，“性と生”の教育，母性看護学実習，生殖学，助産診断論，助産援助論，助産管理論，助産学実習
	小児看護学		小児看護論，小児看護方法，慢性疾患患児の生活と看護，思春期の健康と看護，小児看護学実習
成人・老年看護学	成人看護学	成人期・老年期の人々の特性を，発達課題，生活過程，健康レベルの上から明らかにし，各特性に応じた健康問題とそれに対する人々の反応，解決に向けた看護援助の理論と方法について教授・研究する。	成人・老年病態論：慢性期，慢性期看護論，慢性期看護方法，成人・老年病態論：急性期，急性期看護論，急性期看護方法，がん看護，救急看護，リハビリテーション論，成人・老年事例展開，慢性期看護学実習，急性期看護学実習，医学概論，生と死のケア
	老年看護学		老年看護論，老年看護方法，痴呆と看護，高齢者ケアプラン演習，老年看護学実習

講座	教育領域	講座の内容	開設科目
地域・精神看護学	地域看護学	地域特性に応じた住民の健康問題とそれに対する反応の把握や解決に向けての援助と理論と方法、保健・医療・福祉の諸制度との関連における看護活動の展開方式、保健情報システムなどについて教授・研究する。	地域看護論，地域管理方法，在宅看護論，在宅看護方法，地域福祉論，岐阜県の疾病構造と予防，岐阜県の保健・医療・福祉行政，保健情報学，地域における健康問題と援助，地域管理実習，在宅看護実習，環境と健康，基礎情報学演習
	精神看護学		対人援助論，精神看護論，精神看護方法，精神領域におけるサポートシステム，音楽療法，精神看護学実習

専門基礎を示す。

6 カリキュラムの特色

(1) 教養教育と専門教育の有機的連携

開設する授業科目は、内容に応じて編成されている。これらの科目を教養教育科目と専門教育科目（専門基礎科目，専門科目）に区分し、それぞれ必修科目と選択科目で構成する。教養教育科目は専門教育科目と有機的に繋がりをもたせている。

学生は、自然科学系，社会科学系，人文科学系の学習を積む段階で、環境や健康への理解を進める。基礎科目，専門科目の講義や演習の中で人間と看護に関する考察を進める。人間とその生活を理解をしていく中で、自己を知り、自己の学習能力を高めることに繋がる。そして、看護のケアの質は、それを行う人間の質によって決まることを認識する。さまざまな実習の場では、援助の実際を学習し、学内で学んだ知識・技術の統合を図り、看護という専門性を理解していくという構成になっている。学習内容には、基本から応用へ、単純から複雑へ、健康維持から増進へ、健康逸脱・異常な状態から健康回復へ、生から死へ、個から集団へ、家族中心の家庭から地域へ、などの方向性が織り込まれている。

(2) 他学部開講科目の活用

他学部と教育・研究上の交流と学生相互の理解を深めるため、地域科学部及び教育学部の開講科目を授業科目として取り入れ、幅広い専門教育を実施する。

(3) 医学科との合同講義，合同実習の導入

医学科の学生との合同講義及び初期体験実習など合同実習する機会を設け、全人的医療，総合的医療を担うための人材を育成する。また、お互いの医療職種が果たせる役割は何かについて学ぶ。

(4) テュートリアル教育の導入

多様な価値観が存在する社会，刻々と変化する社会で生活する人々に柔軟に対応できてこそ，地域，在宅ケアを実践していくことができると考える。そのために、テュートリアル教育を積極的に取り入れ、主体的に学習する能力，問題解決能力，統合能力，対人技能，批判的思考（critical thinking）などが修得できるようにする。

教授・学習過程の基本は教授者と学習者の人間関係における信頼の上に成り立つ。

「学習」は、行動を変容させるための力動的な生涯にわたる成長・成熟過程であり、探求の精神と自己の動機づけによって、潜在する能力を最大限に発揮させることである。また、認知、情意、精神運動の各要素が組み合わされた過程である。そこで、学習の主体である学生が積極的に参加して学習できるよう、一方向形式の講義だけでなく、学生個々の能力を引き出し、自己学習能力育成を目指したテュートリアル教育を取り入れ実施する。テュートリアル教育は、「個を育てる教育」「人を育てる教育」でもある。つまり、人が人を育てる教育を誠実に、丁寧に実践することによって、自ずと学生個々の能力は引き出されると考える。

(5) 「健康」を視座とした統合カリキュラムの導入

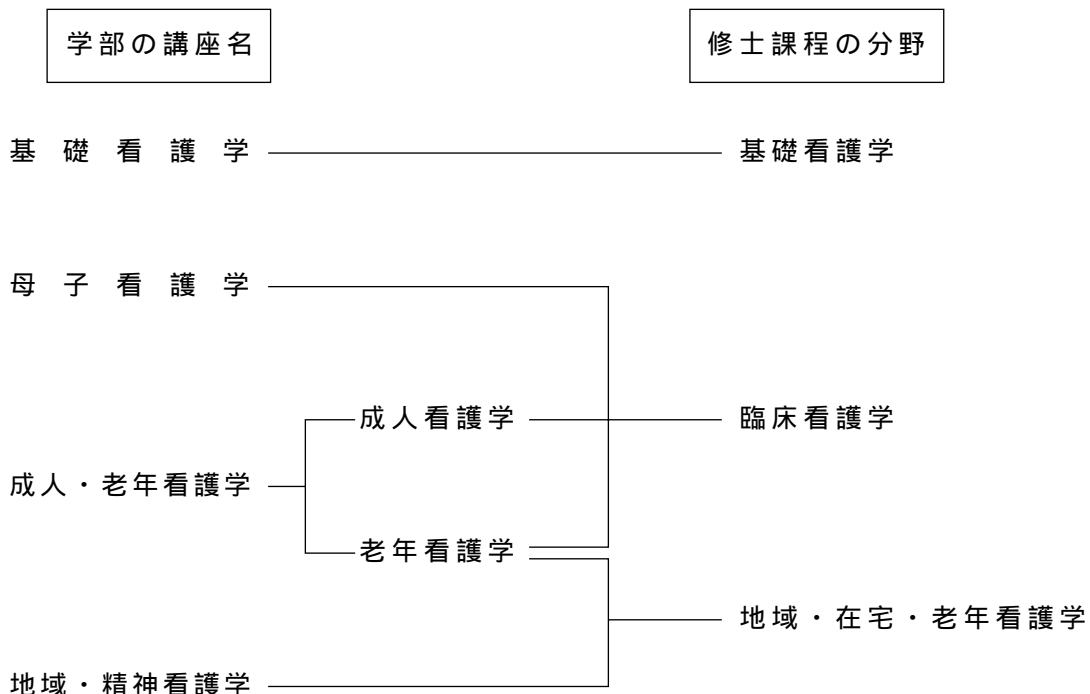
あらゆる健康レベルの対象への看護の提供を基本としている。地域で生活する人を対象とする地域看護学で、はじめて健康保持増進のための対策を考えるのではなく、看護の基礎として、基礎看護学からとらえるようにした。実際に、健康援助学の分野を設け、健康な身体を理解及び健康の保持増進に繋がる科目を位置づけている。

また、あらゆる健康レベルの対象へ一貫した看護の展開ができるように、実習の場として、先端医療を提供する附属病院での実習をはじめとして、在宅を含め、地域と密着した医療施設や保健施設等での保健・医療・福祉の統合を図った実習を行う。

過疎地の多い岐阜県内の保健医療レベルには地域格差が生じやすい。そこを補い、保健医療レベルの維持及び向上を図るためには、情報ネットワークシステムの完備が必要である。このような状況に対応していけるように、コンピューターを活用した教育を積極的に行う。

(6) 大学院課程に繋がる教育の実施

大学院修士課程では、看護学の専攻分野における学識を深め、科学的思考力と基礎的な研究能力を養成することに重点をおいた教育を行う。学部の講座と修士課程の看護学各分野との関係は次のとおりである。



修士課程においては、看護学と看護実践に他分野の科学的知識・技術を有効に応用できること、学際的な視野を備えること、そして看護に関する課題を自発的・具体的に研究できる能力を養うことを目標としている。

そのためには学士課程において、それらの目標に繋がる基礎的能力を養い、修士課程と一環した教育を行う必要があり、講座・分野の構成やカリキュラムの構成はこれらの点を十分に考慮している。

基礎看護学、母子看護学、成人・老年看護学、地域・精神看護学の各講座の必修科目は、各講座の基本的な知識・技術の修得を図るものであり、選択科目は、それらの基本的な知識・技術の幅を広めたり、深めたりするものである。これらの科目を選択し、修得し、さらに発展させることにより大学院課程の教育に繋げることができる。

具体例をあげると、看護学においては生活の援助が中心課題となっており、健康の維持・増進のための援助も生活面での健康教育という形で担ってきた。この健康教育の内容も身体面を生活行動から捉えらえるだけでなく、細胞レベル、さらに分子レベルで見つめることにより、より深めることができると考える。

また、大学の今後のあり方として、「地域との共存」ということが課題となってくる。高齢者問題、障害者問題等は、地域と共に解決していかなばならない。地域とどのように連携し、どのようなサポートシステムを作っていくかが重要な課題であり、その分野の研究に繋げることができるような科目、教育内容を設定している。

7 入学者選抜方法等

看護の分野が、将来の多様化、複雑化する社会の高度なニーズに応えるためには、看護に対する熱意と適性を持った幅広い人材を集めることも重要なことである。この課題に対応するためには、社会人特別選抜や専門高校・総合学科卒業生を対象とした特別選抜、また、編入学制度や科目等履修制度もその方法の一部であり、看護学科では修学を希望する者に広く門戸を開ける。

(1) 社会人特別選抜

近年の著しい医療技術の高度化には目を見張るものがあるが、こうした技術の進歩以上に、社会構造は急速に高齢化に向かい、看護の分野においても、老年看護、地域看護、家庭看護と高齢者を主体とした看護の領域が注目されてきている。よって、社会の要請に対応するためには、専門的技術の修得のみならず、幅広い教養と社会での経験を生かした常識ある人間関係を作り得る看護婦（士）を養成しなければならない。

また、医療技術短期大学部が社会人特別選抜について調査をした結果、社会人経験者の真面目な学習態度や豊かな人生経験が、一般選抜で入学した学生に対し、教育上良好な影響を及ぼし、クラス全体が活気づき、まとまりのよい集団意識の方向に発展することが予想されたとの結論を得ている。

したがって、看護学科では、社会経験豊かな看護に熱意と適性を持った人材を確保するため、社会人特別選抜を実施する。

(2) 専門高校・総合学科卒業生選抜

看護学科では、「受験学力」のみにより学生を求めるのではなく、医療人としての明確な目的意識と適性を持った人材を確保する必要がある。したがって、専門高校や総合学科卒業生選抜を実施し、看護に対する熱意と適性を持った人材を確保するための準備を進めている。

(3) 3年次編入学

医学分野の高度化・専門化や社会構造の急速な高齢化に伴い、医療内容は複雑化・多様化し、また、国民の医療に対する意識の変化などから、看護に求められる内容も複雑化・高度化している。

看護学科では、このような社会の状況に対応し、その要請に応えられる人材を社会に送り出すことも目標にしており、最新の知識と技術を提供し、高度医療の一環を担い得る人材、全人的医療を担う資質の高い看護職者の養成を目指している。

したがって、医療現場で働く医療技術短期大学部卒業生や4年制大学卒業生にも門戸を開放し再教育の機会を与え、最先端の知識と技術を備えた看護婦(士)、豊かな人間性を備えた看護婦(士)を養成するとともに、大学院進学の機会を与え、教育者や研究者を志す者に道を開くため、編入学制度を設ける。

8 点検評価

岐阜大学医療技術短期大学部は、自己評価に関する規程を制定し、自己評価実施委員会を設け、同短期大学部の管理運営、教育及び研究について点検を行い、その報告書「現状と課題 - 明日をめざす岐阜大学医療技術短期大学部 - 」において現状を分析し、問題点を提起してきた。これに基づき、学生の受け入れについては、入学者選抜方法研究委員会等で検討を重ね、平成10年から社会人特別選抜試験を設けて社会人を受け入れ、良好な成果を得てきた。また、授業方法の工夫と改善として、グループ学習の成果を発表・討論させる場を設けて学生主体の能動的授業を実施するなど、様々な問題点に対して積極的に改革を行ってきた。さらに、卒業生の就職先の看護婦長等に対して、同短期大学部卒業生について、他大学等の卒業生との比較も含めた評価を依頼し、その結果を学生指導に生かすなど、間接的にはあるが、外部の意見も取り入れてきた。

看護学科としては、自己評価・外部評価の実施について医療技術短期大学部での経験等を踏まえ、医学科と連携をとりながら対応していくこととなる。